

児童発達支援事業 自己評価 検討結果

事業所名：幼児グループわんぱく

検討日時：2023年2月17日

	工夫している点	課題	改善目標
環境・体制整備	・2022年度の移転後、室内空間が広がったので、室内と庭で子どもたちに必要な静と動の遊びのバランスを取るようになっている。 ・体を使って遊べるよう、園庭にはタイヤやベニヤ板を使ったアスレチックや、部屋ではサーキットブロックを用いている。 ・絵カードやひらがなカードを用いて、物の場所など分かりやすい工夫している。 ・子ども同士が関わって遊べるようなおもちゃを探し、購入したり作成したりするようにしている。	・2022年度の移転後、庭が狭くなってしまった。 ・園庭が狭いため、スロープも活動場所として使用しているが、近隣住民から子どもたちや援助者の声がうるさいとクレームがあった。 ・園庭の入口に壁などがいないため、厳重な安全管理が必要である。 ・主活動室は広がったが、部屋数が少ないため、体調不良児の隔離など非常時の対応が難しい場合がある。また、施設内での保護者会の開催が難しい。	・砂場や三輪車コンビーカーなどを引き続き用意し、タイヤや大型木材を工夫して組み合わせ、子どもが飽きずに遊べる環境づくりに努めていく。 ・より快適な療育空間を目指し、日々の遊具点検等を丁寧に行っていく。 ・近隣の公園を活用して、子どもの遊びの質を高めるよう努める。 ・室内から園庭に出るときは、必ず大人が付き添い、安全に遊びを始めるようにする。 ・緊急時は相談室を休養室として活用し、保護者会はZoomや地域の地区会館などを利用し、新型コロナウィルス感染対策をして開催していく。
業務改善	・常勤職員の仕事内容を可視化し、効率的な業務進行に努めている。 ・月目標に基づき活動を行っている。毎週末のまとめ、月末のまとめを通して療育の振り返りを行い、翌週、次月の活動内容や支援内容について話し合っている。 ・職員、アルバイトスタッフの資質向上を目的として、定期的に研修及び、学習会を実施。毎月1回ケース検討会議、サポーターズカレッジの視聴を行っている。職員は外部研修(今年度はリモートを活用)にも参加している。 ・平成29年度に第三者評価を実施。	・職員間の話し合いで抽出した課題について、全アルバイトスタッフに周知できていない部分がある。 ・学習会やケース検討会議に参加できなかったアルバイトスタッフへの内容の周知が不十分である。	・会議等の資料を全スタッフに配布し、資料閲覧済みのサイン欄を設けて、内容の周知、共有を引き続き図っていく。 ・学習会やケース検討会議の日程設定を固定曜日にせず、年間を通してバランスよく参加できるような日程にする。
適切な支援の提供	・平成30年度より新規の子どもに対して「KIDS乳幼児発達スケール」をアセスメントとして活用している。個別指導の機会に応じて「LC(言語コミュニケーション)発達スケール」「PVT-R絵画語彙発達検査」を活用している。 ・個別支援計画作成にあたっては、保護者に「予備調査票」を配布し、保護者のニーズの把握を行い、半期に1度の頻度で見直し、面談を行っている。 ・日々の療育の前後に支援者間で打ち合わせ、終礼の時間を設け、活動内容等の共有、振り返り等を行っている。 ・コロナ禍の在宅支援として電話、動画送付を必要に応じて行っている。	・個別支援計画の内容について、アルバイトスタッフへの情報周知の難しさがまだある。 ・新型コロナウイルス感染症流行の影響で、行事や保護者会の開催自粛や、保護者同伴通園の実施が難しいなどで、家族支援が行き届かなかった点があった。	・助成金等を活用して、発達検査機材の購入を検討している。 ・引き続き、アルバイトスタッフも支援計画を確認しながら日々の記録を記入できるようにしていく。 ・現在活動プログラムの立案は常勤職員を中心に行っているが、スタッフ全体としても検討していけるよう、終礼などの機会にアルバイトスタッフとも意見交換できるよう努めていく。 ・ZoomやYouTubeなど新たな媒体を活用することで、新しい支援の形を検討していく。

	工夫している点	課題	改善目標
関係機関や保護者との連携	・幼稚園等の先生の来訪、またはこちらから幼稚園等に訪問する機会を設け、情報共有と共に、必要に応じて支援の方法などを伝え連携を図っている。 ・就学を迎える年長児については、就学先への紙面での情報提供や、就学先の先生の来訪によって情報共有を行っている。 ・児童発達支援センターが主催する研修や連絡会、自立支援協議会に参加し、他施設間との連携を行っている。 ・保護者とは連絡帳活用、また送迎時にその日の療育の様子を伝えている。月に1～2回発行する、活動内容を伝えるおたより、保護者同伴通園、面談、年2回の保護者会などを通して、様子を伝えている。(今年度は新型コロナウイルス感染症流行の影響で実施できていないものもある) ・社会福祉協議会松原地区事務局の協力の元、ハロウィンやクリスマスの際に地域の方と交流を図ることができた	・幼稚園、保育所等との交流や障がいのない子どもと活動する機会が設けられていないのが現状。 ・コロナ禍の支援として、電話やZoom、YouTubeの活用を通して補うよう努めたが、関係機関との連携、保護者支援など例年に比べ行き届かない部分も残っている。おたよりやYouTube配信を通して子どもたちの活動の様子を伝えるようにしている。	・今後、療育内容に地域の子どものとの交流を組み込んでいけるか検討していく。 ・長引く新型コロナウイルス感染症流行下の中で、どのような保護者支援、家庭支援が出来るか検討し、リモートの活用やおたよりの充実に力を入れていく。
保護者への説明責任等	・契約時に運営規定や利用料金等についての説明を行っている。 ・新型コロナウイルス感染症流行に配慮した上で対面の保護者会を実施した。 ・送迎時には療育中の子どもの様子を伝えると共に、家庭の様子もうかがい、家庭との連携を密に取れるような体勢を心掛けている。また、新型コロナウイルス感染症流行の状況に応じて、個別に保護者参観を行った。 ・年2回の保護者会の開催、専門職による学習会、学齢児の保護者の方の協力を得て情報提供してもらうなど、子育て支援を行っている。	なし	なし
非常時等の対応	・各マニュアルを整備している。スタッフ間で内容が周知出来るよう「感染症について」「嘔吐処理について」「虐待防止について」などの学習会を実施している。 ・地震、火災、不審者侵入を想定した避難訓練を、年間計画を立てて適宜実施している。事前に全スタッフに計画書を配布して、訓練内容の周知に努めている。 ・食物アレルギー、てんかん発作、服薬については、毎年年度初めにアンケートを実施している。必要に応じて、災害用に薬を3日分預かっている。預かっている薬は定期的に内容を確認・更新している。 ・災害時に備えて、発電機、火災報知器、消火器、ヘルメット、備蓄品(食料、飲料水、オムツ、毛布、軍手、新聞紙、電池、救急セット、簡易トイレ)等常備し、年3回点検を行っている。 ・毎日ヒヤリハットを終礼にて確認し、月ごとにヒヤリハット、事故、苦情をケースごとにまとめている。	・避難訓練を実施しているが、児童は必ずしも毎日通所しているわけではないので、利用がない日の実施だと訓練に参加できない。 ・年度初めの保護者会で全保護者対象で「災害時における避難対策について」を配布、説明しているが、周知不足が課題となっている。 ・危機管理マニュアル、感染症対策マニュアルなど整備しているが、各全マニュアルの周知不足が挙げられる。	・避難訓練の年間計画を立てる時点で、曜日を固定することなく各曜日で実施できるよう検討していく。 ・「災害時における避難対策について」の周知不足の解決に、おたよりや玄関掲示も活用して周知に努める。 ・もれなく各マニュアルが周知出来るよう学習会を計画立てて行う。

保護者等からの事業所評価の集計結果（公表）

公表 令和5年 月 日

アンケート期間: 令和 4年12月28日～令和 5年1 月22日

事業所名 幼児グループわんぱく

保護者等数(家庭数)24名

回収数 22名

割合 91%

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制整備	1	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	19	3	0	0	トイレが広くて、子どもと入りやすいのがいいです。 言う事なしの完璧です！！	
	2	職員の配置数や専門性は適切であるか	22	0	0	0	とても良い環境で療育をして下さっていると思います。	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	19	2	1	0		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	21	0	0	0		
適切な支援の 提供	5	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されているか	22	0	0	0	本人の興味に応じた課題や、どこまで理解できているかが、親にもよくわかるように提示していただいています。 毎回、子供が飽きないように工夫していただいているのはもちろん、その時々の子供の機嫌なども捉えて無理なく支援してもらっていて感謝しています。	
	6	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	22	0	0	0	個別支援計画は今の状態にぴったりで作っていただきそれに沿った療育をしていただいています。幼稚園との連携もしていただき感謝しかありません。	
	7	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	22	0	0	0	障害がない子供との交流についてはありませんがのぞんでもいません。	
	8	活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか	21	1	0	0	健常のお子さんとの交流を求めているので交流がないことに不満はございません。	
	9	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	5	3	9	5		
保護者への 説明	10	運営規定、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	22	0	0	0	我が子何を苦手としているのか、どうやって乗り越えたらいいかよく説明していただいています。	
	11	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明がなされたか	21	0	0	1	いつもフォローしていただけてます。問題が起きた時相談するとすぐに解決に繋がるし親のフォローも完璧です。	
	12	保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)が行われているか	19	2	0	1		
	13	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況、課題について共通理解ができているか	20	2	0	0		
	14	定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	19	1	1	1		
	15	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	11	5	1	5		

等	16	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	21	1	0	0	
	17	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	21	1	0	0	
	18	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	21	0	0	1	
	19	個人情報の取り扱いに十分注意されているか	19	2	0	1	
非常時等の対応	20	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか。	17	2	0	3	安心して預けさせていたいてます。 本人は楽しみながら少し難しいことに挑戦して学び、親は専門家の分析を聞いて不安や疑問を解消できている。期待通り。
	21	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	12	2	0	8	子供の発達の状況に合わせて無理なく適切な支援をもらっています。そのおかげで親も焦らず楽しみながら成長を見守ることができています。
満足度	22	子どもは通所を楽しみにしているか	20	1	0	1	幼稚園や他の療育には行き渋りがあってもわんぱくだけは楽しみに通ってくれます。子供の安心できる場所はわんぱくです。
	23	事業所の支援に満足しているか	22	0	0	0	

○この「保護者等からの事業所評価の集計結果(公表)」は、保護者等の皆様に「保護者等向け児童発達支援評価表」により事業所の評価を行っていただき、その結果を集計したものです。